

機関番号：10101
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2007～2010
 課題番号：19402025
 研究課題名（和文） ポーランド・リトアニアから英・独・仏への出稼ぎの動機・吸引要因の大量観察研究
 研究課題名（英文） Mass-observation analysis of emigration factors from Poland and Lithuania and countermove by the western EU

研究代表者
 吉野 悦雄（YOSHINO ETSUO）
 北海道大学・大学院経済学研究科・教授
 研究者番号：80142678

研究成果の概要（和文）：EU6カ国におけるポーランドとリトアニアからの移民の出国動機ならびにEUの対応のアンケート調査研究。調査国は、独、仏、英、アイルランド、スペイン、デンマークであった。161人の移民労働者と平均50分のインタビューをおこない、その結果を統計的に分析した。特に移民の第一動機が高収入であるとの従来の欧米での通説に対して、男女の愛と夫婦の絆が移民の第一動機であることが明らかになったことが最大の成果である。

研究成果の概要（英文）：**Questionnaire analysis of emigration motivation and countermove by the western EU. This research was done in Germany, France, England, Spain, Ireland and Denmark. 161 questionnaire answers were collected from Polish and Lithuanian workers. This research result shows that the first motive of emigration is not income but human love.**

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010年度	1,500,000	450,000	1,950,000
総計	6,100,000	1,830,000	7,930,000

研究分野：経済事情

科研費の分科・細目：経済政策

キーワード：移民，外国人労働，ポーランド，リトアニア，EU

1. 研究開始当初の背景

ポーランドでは1980年ころより、リトアニアでは1995年ころより西欧への移民出稼ぎが急増した。彼らを移民にかりたてる要因も、彼らを受入る環境も明確でなかった。

2. 研究の目的

2004年5月に東欧諸国がEUに加盟した後、顕著になったイギリス・フランス・ドイツにおけるポーランド人とリトアニア人の外国人労働の問題に焦点をあてて、彼らの移民労働の動機および彼らを吸引する要因を、ファミリースタディを援用して、深層から明らか

にすると同時に、一定程度の標本を調査することにより、4年間をかけて統計分析の有意性もちうる結論を導出することにより、ひいては近い将来、日本において予想される外国人労働力の大量採用の際の対応指針を示唆することも目的とする。外国人労働者に対する直接インタビューという手法を用いた先行研究は欧米でもまだ少なく、それなりの困難は予想されるが、研究代表者がインタビューに参加することにより、出入国管理局とも、税務当局とも無縁の日本人による調査であるという安心感を生かして、調査・研究を遂行する。EU域内の移民をアンケートなり

インタビューなりで調査した先行研究は日本とリトアニアではまったくない。ポーランドにおいては40人程度の移民にインタビューした研究がある。100人を超えるインタビューを行った英語論文は研究代表者が知る限りひとつもない。本研究はこのような未開拓領域に挑戦したものである。

3. 研究の方法

本研究は多くの新機軸を導入した。

(1) 本研究の方法は直接インタビューの大量観察であること。申請時には160件の調査を行う予定としていたが、ポーランド人移民に72件、リトアニア人移民に89件の合計161件の調査を行うことができた。

(2) 調査票は作成したが、対象者には調査票の流れにそって自由に発言してもらう方法を取り、それを録音した。最終的に研究代表者がそれを聞きなおし、適切な選択肢を選んだ。具体的に言えば、対象者が当初は「生活が苦しくて」と述べておきながら、最終的には夫婦の離婚が移民の原因であることが分った。通常行われるアンケート方式では、このような方法は採れない。すなわち、選択肢の判断の基準が調査者によって統一されているのである。

(3) 調査票とは直接には関係しないライフ・ヒストリーも語ってもらった。本調査で最も豊富な内容を持つものはこれかもしれない。移民に至るまでの経緯などが詳細に分った。

(4) 調査対象者の選定。最初に各国で、ポーランド語小学校の教師、リトアニア人の神父、ポーランド人協会の会長などキーパーソンを一人選び、2・3人ほどを紹介してもらった。そして、紹介された1人の人に1ないし2名の知人を紹介してもらい、次に同じことを繰り返した。最初の8人程度はキーパーソンと何らかの関連性が見られたが、残りは全くの無作為抽出と同様であった

(5) 面接時間はインタビューに50分、その前の挨拶で10分、最後の雑談で30分から1時間で合計で1時間半ないし2時間であった。雑談から、非常に豊富な事実を収集できた。

(6) ポーランド人移民の面接は研究代表者が行い、ポーランド人社会学者が補助してくれた。リトアニア人移民の面接はリトアニア人社会学者が行い、研究代表者も同行し、録音テープを後にポーランド語に翻訳してもらって、研究代表者が分析した。

(7) 質問事項は、大問設定で18個であるが、それぞれが枝分れしており、統計処理で数値的に扱う事項は119項目であった。

(8) 調査国は、ポーランド人移民がドイツ、フランス、アイルランド。リトアニア人移民がイギリス、スペイン、デンマーク、ドイツであった。

4. 研究成果

以下では、スペースの関係上、ポーランドとリトアニアを分けず、合算した結果を示す。

(1) 記述統計

119項目のすべてを示すスペースがないので、主要な指標のみ示すことにする。

- a) 男性68人。女性93人。
- b) 平均年齢 38.4歳。
- c) 学歴

中学校および職業専門学校卒	1人
普通高校及び職業高校卒	39人
短期大学卒	1人
大学(学士・修士)卒	5人
大学院博士課程卒	91人
大学院博士課程卒	15人
- d) 言語・全く分らず、買い物程度。106人

日常会話可能, 流暢。	55人
-------------	-----
- e) 自分の専門知識・現地で活かした。69人

・現地で活かせなかった。	92人
--------------	-----
- f) 当該国に自分の親戚が住んでいた。70人

住んでいなかった。	91人
-----------	-----
- g) 当該国で勤務した会社の平均数 2.52社

うち自分の専門を活かした会社数	0.87社
-----------------	-------
- h) 当該国での平均滞在年数 8.04年
- i) 移民時に

住む場所が決まらなかった人	10人
住む場所が決まっていた人	151人
うち、家族・親戚が世話した例	60人
知人・友人が世話した例	38人
恋人・愛人が世話した例	20人
他 の人(例えば雇用主)の例	22人
- j) 移民時に就職先が決まっていた人 39人

決まっていなかった人	122人
------------	------
- k) 最初の住宅探しを助けてくれた人は誰?

家族・親戚	36人
友人・知人	54人
各種広告・インターネット	14人
雇用主	17人
恋人・愛人	20人
誰もいなかった	10人
その他の人	18人
- l) 最初の職探しを助けてくれた人は誰?

家族・親戚	28人
友人・知人	70人
各種広告・インターネット	29人
雇用主	14人
恋人・愛人	16人
誰もいなかった	13人
その他の人	18人
職安・リクルートセンター	21人
- m) 最初の職が見つかるまでの期間は?

1日から6日の間	45人
7日から1週間の間	27人
15日から1カ月の間	22人
1カ月から2カ月の間	17人
2カ月から6カ月の間	17人

6カ月以上1年の間	1人
1年以上	32人
n) あなたの移民の目的は？	
より高収入をもとめて	43人
職業キャリアを積み訓練のため	14人
新しい世界を見るため	36人
自己の希望をかなえ自己実現のため	29人
恋愛・愛人関係の結果	18人
その他	81人
o) 当該国での仕事は期待どおりでしたか？	
大満足	82人
どちらかという満足	51人
どちらでもない	10人
やや不満	6人
大変不満	2人

以上の記述統計から多くのことが分る。

- 最低でも普通高校か職業高校を卒業していないと移民できないこと。
- 大卒と大学院卒は容易に移民できること。
- 最初は現地語を知らなくても、移民として生きていけること。
- 母国で習得した専門知識が活かせない場合の方が多くいること。
- 当該国に家族や親戚がいるとかなり移民しやすいこと。
- 移民後、すくなくとも2回は転職していること。
- 移民の初日に宿泊先が決まっている者がほとんどであること。
- 移民の初日に就職先が決まっている者は4分の1であること。
- 住宅探しや職探しでは、家族よりも知人・友人の方が力になっていること。
- 住宅探しや職探しでは、職安やインターネットや広告はさほど重要な役割を果たしていないこと。
- 恋人や愛人がかなりの役割を果たしていること。
- 就職先がかなり早期に見つかる人と1年以上見つからない人に両極分解していること。
- 移民の目的では、高収入目的が以外に少なく、新しい世界をみたり自己実現を目指す者の方が多くいること。
- 移民者の大多数が移民の成果に満足していること。
- 移民目的の回答項目「その他 81人」のうち約半分が「夫が先に移住していたため」であった。

以上のことが分った。

(2) 統計分析

非常に多数の統計分析を行ったが、最も代表的で特徴をよく把握できる相関分析の結果のみ紹介しよう。

1%有意水準をもつ相手項目が6個以上

ある項目だけを選んだ。

注) ▲はプラスの相関を示す。▼はマイナスの相関を示す。いずれも1%有意水準。

<1> 「実年齢」は、「▼移民目的が世界をみるため」、「▼移民の目的が進学・学習のため」、「▼移民に際して両親と相談した」、「▲移民に際して配偶者や兄弟と相談した」、「▲当該国での滞在年数」、「▼家探しで知人が助けた」、「▼最初の職場で知人が助けてくれた」の各項目と1%有意水準で相関している。

<2> 「概年齢」は、「▼移民目的が世界をみるため」、「▼移民の目的が進学・学習のため」、「▼「移民に際して両親と相談した」、「▲移民に際して配偶者や兄弟と相談した」、「▲当該国に家族親戚が住んでいた」、「▼移民目的が世界をみるため」、「▼移民の目的が進学・学習のため」、「▼「移民に際して両親と相談した」、「▲移民に際して配偶者や兄弟と相談した」、「▲当該国での滞在年数」、「▼家探しで知人が助けた」、「▼最初の職場で知人が助けてくれた」、「▼移民時に会社の状況を知っていた」、「▲当該国に家族・親戚が住んでいた」、「▼家探しで知人が助けた」、「▼最初の職探しが2週間以内「▼最初の職場で知人が助けてくれた」の各項目と1%有意水準で相関している。

<3> 「大学卒」は、「▲現地語が話せた」、「▲専門性を活かせた」、「▲移民に際して両親と相談した」、「▼当該国に家族・親戚が住んでいた」、「▼もし母国で適切な地位と収入がみつければ母国に帰国する」、の各項目と1%有意水準で相関している。

<4> 「専門知識を活かしたか」は、「▲大学(学士・修士を卒業している)」、「▲当該国での滞在年数」、「▼もし母国で適切な地位と収入がみつければ母国に帰国する」、の各項目と1%有意水準で相関している。

<5> 「高収入を求めて移民した」は、「▼自己実現のために移民した」、「▼当該国での滞在年数」、「▲もし母国で適切な地位と収入がみつければ母国に帰国する」、「▲家探しで知人が助けた」、「▲最初の企業名をしっていた」、「▲最初の企業の地位をしっていた」、「▲最初の企業の賃金をしっていた」、の各項目と1%有意水準で相関している。

<6> 「世界をみるため移民した」は、「▼実年齢」、「▼概年齢」、「▲自己実現のため移民した」、「▲移民に際して両親と相談した」、「▲他の外国に家族・親戚がいる」、「▼もし母国で適切な地位と収入がみつければ母国に帰国する」、「▲移民時に会社の状況を知つ

ていた」の各項目と1%有意水準で関連している。

<7>「恋愛・愛人関係で移民した」は、「▲現地語が話せた」、「▲外国に家族・親戚がいる」、「▲移民後最初に住む場所を恋人が世話した」、「▲家探しで恋人が協力した」、「▲最初の会社の概況を知っていた」、「▲職探しで恋人が協力した」、「▲会社の仕事で恋人が助けてくれた」、の各項目と1%有意水準で関連している。

<8>「当該国に家族・親戚がいる」は、「▲概年齢」、「▼大学院卒」、「▲移民に家族は大満足した」、「▼移民に際して両親と相談した」、「▲外国に家族・親戚がいる」、「▲他の外国に家族・親戚がいる」、「▲家探しで家族が協力した」、「▲家探しで知人が協力した」、「▲最初の企業名をしっていた」、「▲最初の企業の地位をしっていた」、「▲最初の企業の賃金をしっていた」、「▲移民後職が見つかるまで1年以上かかった」、「▲職場ではその他の人が助けてくれた」、の各項目と1%有意水準で関連している。

<9>「移住前に住む場所が決まっていた」は、「▼実年齢」、「▲EU諸国に家族・親戚がいる」、「▲最初の住居は知人が世話した」、「▲家探しで知人が協力した」、「▼最初の家探しで誰の世話にもならなかった」、「▲最初の会社の概況を知っていた」、「▲最初の会社で知人が仕事を助けてくれた」、「▲最初の会社で誰も仕事を助けてくれなかった」、の各項目と1%有意水準で関連している。

<10>「最初の居場所を世話したのが家族である」は、「▼世話したのは知人である」、「▼世話したのは別の人である」、「▼世話したのは恋人である」、「▲家探しに家族が協力した」、「▼家探しに恋人が協力した」、「▲最初の会社の仕事で家族である」、の各項目と1%有意水準で関連している。

<11>「最初の居場所を世話したのが知人」は、「▼移民の目的がその他」、「▲移民前に居場所がきまっていた」、「▼家族がそれを世話した」、「▼家族が次の家探しを助けた」、「▲知人が次の家探しを助けた」、「▲インターネットが次の家探しに役立った」、「▲知人が職探しを助けた」、「▲職が見つかるまで2カ月以上6カ月以下だった」、「▼最初の会社の仕事を家族がたすけた」、「▲最初の会社の仕事を知人がたすけた」、の各項目と1%有意水準で関連している。

<12>「家探しで知人が助けた」は、「▼実年齢」、「▲高校卒」、「▲移民動機がより高収

入」、「▼当該国に親戚が住んでいる」、「▲EUに親戚が住んでいる」、「▲移民前に居場所が決まっていた」、「▲移民前に居場所が決めたのは知人である」、「▼次の家探しは家族が手伝った」、「▲次の家探しは雇用者が手伝った」、「▲最初の会社の概況を知っていた」、「▲職探しは知人が手伝った」、「▼最初の会社で家族が仕事を助けた」、「▲最初の会社で知人が仕事を助けた」の各項目と1%有意水準で関連している。

<13>「6日以内に職を見つけた」は、「▼外国に親戚がいるか」、「▼EUに親戚がいるか」、「▲最初の居場所を見つけたのは恋人」、「▲移民前に会社が決まっていた」、「▲その企業の地位を知っていた」、「▲その企業の賃金を知っていた」、「▼2週間までに職が見つかった」の各項目と1%有意水準で関連している。

<14>「7日目から2週間以内に職を見つけた」は、「▼実年齢」、「▲移民動機が世界を見るため」、「▲転職回数が多い」、「▼移民前に会社が決まっていた」、「▼その企業の地位を知っていた」、「▼その企業の賃金を知っていた」、「▲職探しに知人がつづいた」、「▼6日以内に職が見つかった」の各項目と1%有意水準で関連している。

<15>「職探しで恋人が助けた」は、「▲その他の理由で移民した」、「▲男女の愛で移民した」、「▲移民直後の最初の居場所を恋人が世話した」、「▲次の家探しで恋人が助けてくれた」、「▲最初の会社の概略は知っていた」、「▲最初の会社の仕事で恋人が助けてくれた」の各項目と1%有意水準で関連している。

<16>「移民前に就職先を知っていた」は、「▲より高収入を求めて移民した」、「▼当該国に家族・親戚がいるか」、「▲家探し出稼ぎ雇用手が助けてくれた」、「▲その会社での地位を知っていた」、「▲その会社での賃金を知っていた」、「▲その会社の概況を知っていた」、「▼その会社に関する他の情報」、「▲移民後6日以内に就職した」、「▼移民後7日から2週間で就職した」、「▼最初の会社での仕事を家族が助けてくれた」、「▲最初の会社での仕事を雇用主が助けてくれた」の各項目と1%有意水準で関連している。

<18>「その会社の地位を知っていた」は、「▲移民前に就職先を知っていた」、「▲より高収入を求めて移民した」、「▼当該国に家族・親戚がいるか」、「▲家探し出稼ぎ雇用手が助けてくれた」、「▲その会社名を知っていた」、「▲その会社での賃金を知っていた」、「▲その会社の概況を知っていた」、「▼その

会社に関する他の情報」,「▲移民後6日以内に就職した」,「▼移民後7日から2週間で就職した」,「▼最初の会社での仕事を家族が助けてくれた」,「▲最初の会社での仕事を雇用主が助けてくれた」の各項目と1%有意水準で相関している。(注;基本的には前の項目の分析結果と同一である)。

<19>「その会社の賃金を知っていた」は,「▲移民前に就職先を知っていた」,「▲より高収入を求めて移民した」,「▼当該国に家族・親戚がいるか」,「▲家探し出稼ぎ雇用主が助けてくれた」,「▲その会社での地位を知っていた」,「▲その会社の概況を知っていた」,「▼その会社に関する他の情報」,「▲移民後6日以内に就職した」,「▼移民後7日から2週間で就職した」,「▼最初の会社での仕事を家族が助けてくれた」,「▲最初の会社での仕事を雇用主が助けてくれた」の各項目と1%有意水準で相関している。(注;基本的には前の項目の分析結果と同一である)。

<20>「移民前の就職先にその他の情報を知っていた」は,「▲家探し出稼ぎ雇用主が助けてくれた」,「▲その会社での地位を知っていた」,「▲その会社での賃金を知っていた」,「▲その会社の概況を知っていた」,「▼その会社に関する他の情報」,「▲移民後6日以内に就職した」,「▼移民後7日から2週間で就職した」の各項目と1%有意水準で相関している。(注:この直前の3つの分析とかなり似通っている)

<21>「最初の職場で家族親戚が助けてくれた」は,「▲当該国に家族・親戚がいるか」,「▲移民直後の最初の居場所を家族が世話した」,「▼移民直後の最初の居場所を知人が世話した」,「▲次の家探しで家族が助けてくれた」,「▼次の家探しで知人が助けてくれた」,「▼最初の会社名を知っていた」,「▼その会社での賃金を知っていた」,「▼その会社での地位を知っていた」,「▼職探しで知人が協力した」の各項目と1%有意水準で相関している。

<22>「最初の職場で友人が助けてくれた」は,「▼実年齢」,「▼移民直後の居場所が決まっていた」,「次の家を探すのに知人が助けてくれた」,「▼当該国での滞在期間が長い」,「▼次の家探しで家族が助けてくれた」,「▲次の家探しで知人が助けてくれた」,「▲職探しに友人が助けてくれた」,「▼最初の職場の仕事で家族も助けてくれない」,「▼最初の職場の仕事で誰も助けてくれる」の各項目と1%有意水準で相関している。

<24>「最初の職場でその他の人が助けてくれた」は,「▲実年齢」,「▲当該国に家族・親戚がいる」,「家探しで知人が助けてくれた」,「最初の職場で知人が助けてくれた」の各項目と1%有意水準で相関している。

以上の項目がそれ自身以外の6個以上の項目と1%の有意水準で相関していた。

特徴をまとめると以下ようになる。

- a) 高い学歴は他の多くの項目と関連しており,移民生活で重要な役割果たしている。
- b) 移民に希望を持って,世界を見ようという若者や,母国では実現できない人生を目指す者は他の多くの項目と関連しており,移民生活で重要な役割果たしている。
- c) 恋愛・愛人関係は他の多くの項目と関連しており,移民生活で重要な役割果たしている。
- d) 家族は他の多くの項目と関連しており,移民生活で重要な役割果たしている。
- e) 知人・友人は家族と同様に他の多くの項目と関連しており,移民生活で重要な役割果たしている。
- f) 移民前に就職先情報を確保している者は他の多くの項目と関連しており,移民生活で重要な役割果たしている。
- g) 6週間以内で職が見つかった者は,あらかじめ職が内定していた者が多い。一方,2週間以内で職を見つけた者は現地で職を探した者で他の多くの項目と関連しており,移民生活で特異な役割を果たしている。この両者では職場情報に決定的な差異がある。
- i) 「3. 研究方法」で移民目的の分類において,「その他」が81人と圧倒的に多かった。実はその過半数が,「夫が移民するのについてきた」とか「夫が移民していたので後を追った」というものであった。つまり家族のつながりが大きな役割を果たしていることが予想されたのであるが,この「2. 統計分析」においても,このことが強く確認された。

(3) 今後の展望

2006年に提出した申請書に記したように,2011年5月1日をもって,ルーマニアとブルガリアを除くEU各国の国際移住と労働市場の開放が実現した。本成果報告書では記載できなかったが,年齢階層別の移民の特性分析からは,明確な変化が読み取れ,その変化の傾向は2011年以降も継続するであろう。すなわち,中年層に代表される高収入目的の肉体労働者のEU域内移民は減少し,「新しい世界で自己実現をはかる」目的の移民が増えるであろう。具体的には本国での大学を休学して西側EUの大学に留学する,あるいは高校卒業後ただちに西側EUの大学に留学

し、現地で就職先を見つけるという傾向が強まるであろう。デンマーク、フランスやドイツなどでは各国ごとに事情は多少異なるが、学費は無料か、ほぼそれに近く、奨学金と週に2回程度のアルバイトで、勉学が可能である。英国では授業料は日本より安く、奨学金も支給され、親の援助なしに勉学できる。このようにして、EU各国は優秀な労働者を育成していると考えられる。

一方、EU加盟国ではあってもシェンゲン条約に加盟していないルーマニアとブルガリアの、とりわけジプシーに対してはEUの拒絶反応は強く、労働市場で閉鎖的な対応を採るであろう。EU外のトルコ人に対しても同様な対応となろう。2011年春以降、リビア・チュニジアからのEUへの出稼ぎ目的の移民が急増しているが、本研究の対象外であり、また現状も流動的なので今後の展望については述べることができない。

5. 主な発表論文等

4年かけて161件のデータが揃うまで、統計分析ができないので、論文発表や学会発表は行っていない。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉野 悦雄 (YOSHINO ETSUO)
北海道大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：80142678

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし